

【シラバスⅡ】令和8年度 評価規準

| 教科名 地歴     |                                   | 科目名 (学) 総合日本史   |   |  |
|------------|-----------------------------------|---|---|--|
| 時期・単元      | 内容のまとめ                            | 知識・技能   | 思考・判断・表現等   | 主体的に学習に取り組む態度  |
| 前期中間<br>まで | 近世<br>幕藩体制の動揺<br>近代・現代<br>近世から近代へ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。</li> <li>・幕藩体制下の社会の変容に着目して、宝暦・天明期における新たな学問の確立、各地に設立された教育機関の展開を理解している。</li> <li>・列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、幕府権力が衰退する一方で工場制手工業など近代の萌芽がみられ、雄藩が出現する過程を理解している。</li> <li>・政治・経済と文化の関係などに着目して、庶民文化の形成について理解している。</li> <li>・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品作物の栽培や貨幣経済の浸透により、米作を基盤とする幕藩体制が動揺する過程を踏まえ、飢饉や一揆の発生が幕藩体制に与えた影響を考察し、表現している。</li> <li>・幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。</li> <li>・近世の前半と後半を比較し、文化への影響力をもつ地域や担い手の変化をもたらした原因について多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</li> <li>・政治・経済と文化の関係に着目して、宝暦・天明期における文化の展開について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</li> <li>・飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</li> <li>・近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性について、学問・教育・出版文化や庶民文化を事例としてつながりを見出そうとしている。</li> <li>・日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。</li> </ul> |

|                      |  |   |   |  |
|----------------------|--|---|---|--|
| <p>前期期末<br/>まで</p>   | <p>近世から近代へ<br/>近代国家の成立</p>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解している。</li> <li>・幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解している。</li> <li>・明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、理解している。</li> <li>・自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。</li> <li>・日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。</li> <li>・諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・国内体制を欧米の水準に合わせる事が改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・議会在戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。</li> <li>・明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</li> <li>・自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。</li> <li>・対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。</li> </ul> |
| <p>後期プレ<br/>中間まで</p> | <p>近代国家の展開<br/>近代の産業と生活<br/>恐慌と第二次世界大戦</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について理解している。</li> <li>・ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。</li> <li>・産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察</li> </ul>   | <p>対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。</li> <li>・産業の発展とそれによる社会問題への対応について課題を見出し、自</li> </ul>   |

|        |              |   |   |   |
|--------|--------------|---|---|---|
|        |              | <p>適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究、欧米の科学技術の導入、教育の普及・拡充について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。</li> <li>・学問・芸術・出版・マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わりとその浸透度、社会風潮との関連を理解している。</li> <li>・国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。</li> <li>・政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。</li> <li>・戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。</li> </ul> | <p>し、表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。</li> <li>・都市の発達、鉄道・駅の設置やその影響、工場の増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。</li> <li>・当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。</li> </ul> | <p>ら主体的に追究しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することを通じて、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。</li> <li>・マスメディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、自ら主体的に追究しようとしている。</li> <li>・当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の議論について考察したりして、課題を主体的に追究しようとしている。</li> <li>・満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。</li> <li>・日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。</li> </ul> |
| 後期中間まで | 近代・現代恐慌と第二次世 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み</li> </ul>  |

|   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| <p>界大戦<br/>占領下の日本<br/>高度経済成長の<br/>時代<br/>激動する世界と<br/>日本</p> | <p>容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、日本の主権回復の意義について理解している。</li> <li>・ 保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について、外交・政治・経済を踏まえて理解している。</li> <li>・ 冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化について理解している。</li> <li>・ ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。</li> <li>・ 冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。</li> </ul> | <p>省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。</li> <li>・ 日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・L T貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・ 日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。</li> <li>・ 日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。</li> <li>・ 国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。</li> </ul> | <p>出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追究しようとしている。</li> <li>・ 55年体制の歴史的意義や、1960年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。</li> <li>・ 高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</li> <li>・ 第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。</li> <li>・ 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。</li> </ul> |
| <p>主な評価方法</p>   | <p>定期考査</p>   | <p>定期考査、提出課題</p>  | <p>授業態度、提出課題</p>   |
| <p>その他</p>  |   |   |  |